

※一部非公開

令和四年度入学試験問題（前期日程）

国語

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 教科教育専攻 を受験する者は、☐一、☐二について解答しなさい。

中学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修 を受験する者は、☐一、☐二、☐三、☐四について解答しなさい。

注意事項

- 一、解答時間は、小学校教育コース 教科教育専攻 を受験する者については八〇分、中学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修 を受験する者については一〇〇分である。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 四、解答は縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

※ 非公開

一

次の文章は、小学校一年生の夏ちゃんという女の子を主人公とする梨木香歩の小説「夏の朝」から抜粋したものである。アンデルセン童話「親指姫」を読んだ夏ちゃんは、六つのお誕生日にもらった百合の球根から生まれた女の子（他の人には見えないが、夏ちゃんには見える）を「春ちゃん」と名づけて、話し相手としていた。よく読んで、あとの問いに答えなさい。（三〇点）

※ 非公開

※ 非公開

※ 非公開

※ 非公開

※ 非公開

※ 非公開

(梨木香歩、『丹生都比売 梨木香歩作品集』、新潮社、二〇一四年、一二二～一二五ページ、一部改変)

注

1 ガンダム——日本のロボットアニメ「機動戦士ガンダム」に登場するモビルスーツを表している。モビルスーツとは、人型をした有人機動兵器のことを指す。

2 ビームシールド——SF上の架空の兵器。ビームを放射することにより、防御力を得るシールド(盾)のこと。

3 奥津城——外界からさえぎられた奥まった境域。

4 斎木さん——近くのマンションに住んでいる人。

5 スラスタ——ロケットや船舶などの推進システムの総称。

6 マニピュレーター——ロボットの腕や手にあたる部分を指す。

7 ブランデンブルク協奏曲——バッハが作曲した協奏曲。

8 冴子さん——夏ちゃんの大叔母さん。

問一 傍線部 a～e の漢字の読み方を書きなさい。

a 傍(ら) b 微(か) c 憤慨 d 屈託 e 緩(んで)

問二 次の中から、「親指姫」以外のアンデルセン童話を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 野ばら イ 青い鳥 ウ 三年とうげ エ はだかの王様 オ 北風と太陽

問三 傍線部①「モビルスーツ」という比喩は、「夏ちゃん」のどのような有りようを表していますか。説明しなさい。

問四 傍線部②「おかあさんは、ちらつと鋭く寺内先生の目を見た」から、どのような「おかあさん」の思いや意図を読み取ることができますか。あなたの解釈を述べなさい。

問五 この物語において、語り手「私」はどのような存在ですか。説明しなさい。

問六 傍線部③「いつのまにか春は夏になった」という一文はどのようなことを暗示していますか。解説しなさい。

三

次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。(三〇点)

※ 非公開

※ 非公開

※非公開

(ドミニク・チェン、『未来をつくる言葉——わかりあえなさをつなくために——』、新潮社、二〇二〇年、一九五―一九九ページ、抜粋・一部改変)

注 1 環世界——それぞれの生物に立ち現れる固有の世界のこと。

2 縁起——仏教用語。相互依存的な関係のこと。

3 インタフェース——異なる二つのものを結び付ける装置のこと。

問一 傍線部 a～e を漢字で書きなさい。

a エツラン b イゼン c ロテイ d オモム(く) e カ(られる)

問二 空欄 A に入る言葉を、ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 異端 イ 異様 ウ 異質 エ 異形

問三 傍線部①「この二つの動向は一見矛盾するようである、人間の社会が新しい言語を獲得するために通過する必要なステップを共に指し示している」とは、どういうことか説明しなさい。

問四 傍線部②「世界を『わかりあえるもの』と『わかりあえないもの』で分けようとするところに無理が生じるのだ」とは、どういうことか説明しなさい。

問五 傍線部③「対話」と傍線部④「共話」の違いについて論旨を踏まえて説明し、それに対するあなたの考えを二五〇字程度で述べなさい。

三

次の【Ⅰ】は「あけてくやしき」という和歌表現が成立した経緯を語った古文で、続く【Ⅱ】は平安時代の女流歌人である中務がその和歌表現を用いて詠んだ和歌である。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。(二五点)

【Ⅰ】

※ 非公開

(小川豊生責任編集『日本古典偽書叢刊 第一巻』収録「長明文字鑑」^{もじぐまかり}、現代思潮新社、二〇〇五年、二二七～二二八ページ、一部改変)

【Ⅱ】

※ 非公開

(小町谷照彦校注『拾遺和歌集』〈新日本古典文学大系7〉、岩波書店、一九九〇年、三六ページ)

注 1 雄略天皇——西暦四〇〇年代に在位し活躍したとされる天皇。

2 わたつみの神——海の神。

3 淳和の御門——西暦八〇〇年代前半に在位した天皇。本書では「じゅんわ」と振り仮名があるが、「じゅんな」と読むのが通例。

問一 傍線部の動詞①「率」・⑤「経」について、それぞれの基本形と活用の種類を答えなさい。

(基本形は歴史的仮名遣いを用いて平仮名で書くこと。また、活用の種類は「□行□□活用」と示すこと。)

問二 傍線部②「やがて帰らん」・④「せめてゆかしさに」の解釈として適切なものを、それぞれア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

② ア そのまま故郷に戻ろう

④ ア seめてもの慰めにしたくて

イ すぐにあなたのもとに戻るう

イ 攻撃的な気持ちになつて

ウ しばらくしたら戻るだろう

ウ やはり蓬萊に行きたくて

エ しばらくは戻らないだろう

エ どうしても見たいと思つて

問三 太線部 a「な」・b「ぬ」・c「ぬる」・d「に」のうち、文法的意味が他の三つと異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問四 傍線部③「急ぎ神女が……限りなし」を現代語訳しなさい。

問五 空欄

A

 ・

B

 にはいずれも過去の助動詞「き」を活用させたものが入る。それぞれ平仮名で書きなさい。

問六 【Ⅱ】の和歌に用いられている修辞技法について、説明しなさい。

問七 現代において一般的に知られている昔話「浦島太郎」と【Ⅰ】の古文に書かれている内容とを比較すると、幾つかの違いを見出だすことができる。それらの違いの中から二点を、指摘しなさい。

四

次の漢文は、十八世紀前半の琉球王国で活躍した蔡温が著したものである。よく読んで、あとの問いに答えなさい。(一五点)

※ 非公開

(沖縄県教育文化資料センター、『新編 沖縄の文学』、沖縄時事出版、二〇〇三年、一五〇～一五一ページ、一部改変)

注 1 智恵賢否、窮達辱栄——才能の有無や身分の上下。

2 命——運命。

3 何——上の「如」と合わせて「いかん」と読む。

問一 本文中の四つの■には、いずれも同じ返り点が入る。その返り点を答えなさい。

問二 傍線部①「蓋」・②「雖」・③「而已」・④「所謂」の読み方を、送り仮名が必要な場合は送り仮名も含めて平仮名で答えなさい。
(歴史的仮名遣いか現代仮名遣いかは問わない。)

問三 傍線部⑤「命豈然耶」を、「然」が指す内容を明らかにしながら、現代語訳しなさい。

問四 本文の内容を踏まえて、蔡温がこれを書いた目的として最も適切だと思われるものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 平気で人命を奪う同僚に、民衆を抑圧する行為は天罰を受けることになるからやめるよう諭すため。
- イ 琉球国王に、革命によって為政者が失墜するのは天命なので仕方ないことなのだと教示するため。
- ウ 子を亡くして悲しむ友人に、生滅は人の行為のせいではなく自然の摂理なのだと言って慰めるため。
- エ 将来は国の重鎮となる我が子に、常に善行に努めることが民衆に愛される秘訣であると訓示するため。

一

【解答例】

問一	a かたわ(ら)	b かす(か)	c ふんがい	d くつたく	e ゆる(んで)
問二	エ				
問三	集団が優先され、個性や一人ひとりのペースが尊重されることがむずかしい学校の中で生き抜くために、外界から傷つけられることがないように固くガードし、自分のペースや感受性を守るありよう。 寺内先生の自尊心を尊重しつつ、夏ちゃんへの対応を変えてもらわなければならない。そこで、寺内先生の対応の問題点を直接に指摘するのではなく、母親の目線から夏ちゃんの個性やいじめの対象となることへの危惧を伝え、その説明から寺内先生自身が自らの対応のまずさに気づくことを切実に求めている。				
問四	おとうさんの亡くなった姉「芳子姉さん」が語り手となっている。誰からも見えない、現実には何も手助けできない存在ながら、夏ちゃんの傍らで、夏ちゃんをひたすら温かく見守り、夏ちゃんの生命力そのものを応援する存在。				
問五	学校生活との葛藤から身を守ろうと身構えていた固さが次第にとれ、想像上の存在でありながら唯一の対話相手であった「春ちゃん」を必要としないくらい、本来の夏ちゃんの生命力をとりもどし、学校生活の中でもみずみずしくその生命力を発揮できるようになっていったさまを暗示している。				
問六	学校生活との葛藤から身を守ろうと身構えていた固さが次第にとれ、想像上の存在でありながら唯一の対話相手であった「春ちゃん」を必要としないくらい、本来の夏ちゃんの生命力をとりもどし、学校生活の中でもみずみずしくその生命力を発揮できるようになっていったさまを暗示している。				

問一	a 閲覧【1点】	b 依然【1点】	c 露呈【1点】	d 赴(く)【1点】	e 駆(られる)【1点】
問二	ウ【2点】				
問三	今日ではインターネットを介して他者と接する機会が増えたことで生じる、新しい関係が紡がれる可能性と、異なる価値観を持つ人間同士が分断されるという危険性は、一見すると人々がつながると、人を排除するという点で矛盾したものに見える。しかし、両者は、世界を覆う多種多様さをつなぎとめ、その間を行き来することができるようになるための手段を獲得するうえで必ず直面する現象であるという点で共通するものだということ。【7点】				
問四	本来的に完全にわかり合うことができないにも関わらず、「わかりあえるもの」と「わかりあえないもの」に区分しようとすることによって、わかりあえなさを受け止めることができず、結果として自分の価値観に閉じこもり、異なる価値観を許容できなくなってしまう、互いに排除してしまうようになり、結局新しい意味や価値を産み出すことができなくなるということ。【6点】				
問五	筆者は、「対話」は他者との差異を強調する一方で、「共話」は自他の境界を融かすと述べている。私の周りにも様々な考え方を持った人がいる。多様な考え方を簡単に一つにまとめることができない。そうした多様な考え方の人々と「対話」し、合理性ばかりを追求しても互いの違いが強調され、相手を受け入れられなくなる。そうならないためにも「共話」を使うことで、まずは他者と自分がつながる心理的な土台を築き、共に在る感覚をもち、言葉を紡いでいくことで、新しい考え方を生み出していくことができるようにすることが現代のコミュニケーションには重要だと考える。【10点】				

三二 (小計25点)

問一	① ゐる	ワ行上一段 活用	⑤ ふ	ハ行下二段 活用	①点×4
問二	② イ	④ エ	②点×2		
問三	a	②点			
問四	急いで神女の居場所に帰ってしまおうとするけれども、 蓬萊はどこだとも思い出せないので、嘆くことといったらこのうえない。 ④点				
問五	A し	B しか	②点×2		
問六	「あけて」が、夜が明ける意の「明けて」と箱を開ける意の「開けて」との、掛詞となっている。 ③点				
問七	(例) ・昔話では浦島が子どもにいじめられていた亀を助けるが、ここでは釣った亀を放してやっている。 ・昔話では亀が竜宮城に浦島を連れて行くが、ここでは亀が女に変身して蓬萊に連れて行っている。 ・昔話では玉手箱を開けた浦島が老人になって終わるが、ここでは浦島は死んでしまう。 ②点×2				

四

(小計15点)

問三のみ③点、ほかは各②点

問一	レ			
問二	① けだし			
	② いへ(え)ども			
	③ のみ			
	④ いは(わ)ゆる			
問三	運命はどうして(人の行為の)善悪の結果といえるだろうか、いやそうではない。			
問四	ウ			